

創ろう、市民自治のゆたかな社会

第36回地方自治研究全国集会

# 宮城自治研

開催募集要項



開催日 **2016年10月14日**  ~ **15日**  開催場所 **仙台サンプラザホール 他**

主催 自治研中央推進委員会／自治研宮城県実行委員会  
後援 宮城県・仙台市・宮城県市長会・宮城県町村会・連合宮城・宮城県平和労組会議  
河北新報社・TBC 東北放送・仙台放送・ミヤギテレビ・KHB 東日本放送・エフエム仙台

 くわしくは  
Facebookで

自治研

検索

## 目 次

全日程一覧	2
I 集会概要	
1. 集会テーマ	4
2. 集会コンセプト	4
3. 主 催	5
4. 後 援	5
5. 関連イベントの開催	6
6. 集会会場	6
II 関連イベント概要	7
III 分科会概要（10月15日）	8
IV 自治研レポート・論文、チャレンジサポートの募集	
1. 自治研レポート・論文の募集	22
2. 自治研チャレンジサポートの募集	24
V 宿泊・会場のご案内	
1. 宿泊のご案内	25
2. 会場・宿泊施設のご案内	26
VI 参加申し込み、昼食（お弁当）のご案内	
1. 参加申し込みのご案内	28
2. 昼食（お弁当）のご案内	29
3. その他	29
自治研究全国集会参加申込書（第一次）	30

## 第36回地方自治研究全国集会（宮城自治研）全日程一覧

第1日目 10月14日（金） 全体集会 10：00～17：00

会場：仙台サンプラザホール

10：00 開 会

- ・あいさつ
- ・自治研賞表彰・講評
- ・基調提起

11：40～12：40 昼食休憩

12：40

- ・地元歓迎オープニングアトラクション
- ・記念講演 「宮城の未来、復興へのまちづくり（仮）」

東北大学大学院経済学研究科教授 地域計画担当 増田 聡さん

増田先生は、これまでに宮城県仙台市・名取市・東松島市、福島県檜葉町・双葉町等の復興（まちづくり）計画策定に携わってこられました。このご経験を踏まえ、全国の公共サービス労働者に今後のまちづくりのヒントをいただき、地元を持ち帰って前向きに取り組めるようなご講演をいただきます。

- ・パネルディスカッション

「希望の光を地域から～若者も高齢者もいきいきとくらせるまちづくり」

持続可能な魅力ある地域をどうつくるかをテーマに、東北を中心に各地でまちづくりに関わる方々、組合員を交え、地方から希望を語るパネルディスカッションを行います。

- ・コーディネーター コモンズ代表 大江正章さん

- ・パネリスト（調整中）

農業・漁業関係者、地域づくり実践者、被災地のNPO、自治体職員、社協職員等

- ・チャレンジサポート結果発表

17：00 休 会

第2日目 10月15日（土） 分科会 9：00～16：00

会場：仙台市等の会場に分散

第1分科会	～生きる～ 「いのち」を育む・いかす、支えあう
第2分科会	～生きる～ 「いのち」を守る
第3分科会	石巻に虹を架けよう！ ～被災地の今を見る、知る、触れる、考える～
第4分科会	安全な場所・逃げる場所ってどこなの？ ～防災を知ろう～
第5分科会	まちムラの見方「見えているもの」と「見えていないもの」 ～下を向いて歩こう♪～
第6分科会	復興・再興・新興！！ ～消滅でも創生でもない地域づくり～
第7分科会	若者力は無限大∞ ～若者が創り出すまちづくり～
第8分科会	地域の子育て力が豊かな地域社会をつくる ～未来へつなぐ、子育て～
第9分科会	QOD（Quality of Death）を迎えるために ～地域でできること～
第10分科会	公共交通は誰のもの？ みんなのもの！！
第11分科会	じちけん入門！！ ～じちけんから始まる組合活性化～
第12分科会	ほんとうの住民協働とは？ ～地元スペシャルになろう！～
第13分科会	UNDER35「おさんぽカフェ」 ～点線のつながり～

## 1. 集会テーマ

- メインテーマ 「創ろう、市民自治のゆたかな社会」
- サブテーマ 「囲むべ、東北・宮城で“希望”鍋」

## 2. 集会コンセプト

東日本大震災から5年という節目に、宮城で自治研全国集会を開催します。自治労は全国から多くのボランティアを被災地に派遣し支援活動を展開しました。宮城自治研の開催意義は、震災を風化させないということと、全国から震災支援に携わった方への感謝と、今後も多くの困難を乗り越えながらも、力強く生きていくことを、被災地を代表してメッセージを発信することです。また、駆け足で進めてきた復旧・復興について、自治体そして公共サービス労働者として振り返るとともに、今後の課題も抽出し、議論を深めていく貴重な場としていきます。

私たちは、震災によって「命」そして「生きる」ことの大切さを実感しました。それらは単なる生存の意味ではなく、人々が「暮らし」を支えあい、暮らしの集合体である「地域」を守っていくことで、絆が生まれていくことを学びました。私たちは、この「命」「生きる」「暮らし」「地域」のキーワードのもと、公共サービス労働者として、宮城の地で、地域の未来や希望を前向きに語りたいと思います。

宮城自治研のサブテーマを「囲むべ、東北・宮城で“希望”鍋」としました。

「“希望”鍋」には、さまざまな具材（公共サービス労働者、市民、NPOなど）が交ざりあい、それぞれ旨みが増していきます。自治労のネットワークを活かして、全国津々浦々の旬な具材（先進事例）を入れることもできます。仲間を鍋を囲んで希望を語らうことから自治研をはじめよう、私たちが希望をつくり出そうという意味を込めたテーマとなっています。

人口減少対策、コミュニティ再生、地域活性化は、いま重要課題です。被災地では、従前からこれらの課題に直面していましたが、震災によってより顕在化しました。一方で、復興計画に住民参加を積極的に促す試みや、コミュニティ主体のまちづくりによる住民自治の芽生え、NPO、大学等との連携による協働で、これらの課題を解決しようとする新しい動きも見られます。基調講演やパネルディスカッションでは、公共サービス労働者がこうした課題にどのように立ち向かい、どのように対応するかの示唆を参加者に与えてくれるものと思っています。

2日目に行う分科会の作り方は、自治研中央推進委員が議論を重ね、従前の行政の縦割りの分科会からの脱皮を検討しました。その結果「命－命を守る・育てる」「知－東北・宮城を知る」「興－ムラ・まちをおこす」「継－未来へつなぐ」「支－暮らしを支える」「創－住民とつくる」6つのキーワードのカテゴリーで12分科会としました。また、その運営方法も会議室で一方的に話を聞くだけでなく、「被災地を訪れる」「まちのひとの話を聞く」「全国の仲間と交流する」ことを重視しました。なお、分科会の参加にあたっては、参加者が今やっている仕事と重ならないという方もいると思いますが、地域・福祉・まちづくりなどを横串で考察していく、宮城での新たな試みに参加者も挑戦していただきたいと思っています。

若い組合員が自治研全国集会に参加する意味は大きいと思います。組合活動の入口、そして

地域政策を学ぶ機会として、大いに活用していただきたいと思います。感受性豊かでボランティア意識の高い若い組合員が、被災地の住民や被災現場の組合員と交流することにより、防災・減災・原発対策などの政策を肌で感じて各県に持ち帰っていただきたいと思います。また、35歳以下の企画「UNDER35『おさんぽカフェ』」を12分科会とは別に、ひとつの分科会として企画しています。ひと・まち・食をゆるくつなぎ、SNSを使った相互ネットワークにより、つくったつながりを元に、今後の活動の仕組みづくりを参加者とともに行います。

最後に、震災からの復興を確認しあう場として、全体集会前日（10月13日）の夜に「前夜祭」を開催します。東北地連の協力のもと、被災3県の復興への誓い、全国からの支援者と被災単組との再会の場、郷土芸能、ご当地グルメ、地酒、スイーツなど心と胃袋を満足させる取り組みを行います。また、集会の翌日（10月16日）には、津波被害の大きかった沿岸地域のフィールドワークを宮城・福島で行います。風化させない取り組みは現場から、というコンセプトで実施し、満足度120%の自治研全国集会をめざします。

### 3. 主 催

第36回地方自治研究全国集会（宮城自治研）は、自治研中央推進委員会および地元実行委員会が企画・運営にあたります。

#### (1) 地元実行委員会

- ① 名 称 第36回地方自治研究全国集会宮城県実行委員会
- ② 所在地 〒980-0802  
仙台市青葉区二日町7-23 宮城自治労会館内
- ③ 連絡先 TEL：022-222-6814

#### (2) 自治研中央推進委員会事務局

- ① 名 称 第36年次自治研中央推進委員会
- ② 所在地 〒102-8464  
東京都千代田区六番町1 自治労会館5F 総合政治政策局内
- ③ 連絡先 TEL：03-3263-0274 FAX：03-5210-7422  
E-mail：jichiken-honbu@jichiro.gr.jp  
自治研HP：http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/  
自治研facebookページ：https://www.facebook.com/JichiroJichiken

### 4. 後 援

宮城県・仙台市・宮城県市長会・宮城県町村会・連合宮城・宮城県平和労組会議・河北新報社・TBC東北放送・仙台放送・ミヤギテレビ・KHB東日本放送・エフエム仙台

## 5. 関連イベントの開催

- 10月13日（木） 18：00 前夜祭（詳細は7ページ参照）  
 10月14日（金） 18：00 自治研センター交流会（※ 関係者の方には別途ご案内します）  
 10月16日（日） 被災地フィールドワーク（詳細は7ページ参照）

## 6. 集会会場

### (1) 全体集会会場

会場名	住所・電話番号	アクセス	地図
仙台サンプラザホール	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-11-1 TEL：022-257-3300 FAX：022-257-3331	J R仙石線仙台駅～（約3分）～榴ヶ岡駅下車 出入口2すぐ J R仙台駅東口より 徒歩約13分	P 27

### (2) 分科会会場（分科会会場は参加者集約終了後お知らせします）

会場名	住所・電話番号	アクセス	地図
仙台サンプラザ	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-11-1	J R仙石線仙台駅～（約3分）～榴ヶ岡駅下車 出入口2すぐ J R仙台駅東口より 徒歩約13分	P 27
TKPガーデンシティ仙台	〒980-6121 宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1 A E R 21F／30F TEL：022-714-8101	仙台駅西口 徒歩2分 （ペストリアンデッキ直結）	P 27
TKPガーデンシティ仙台 勾当台	〒980-0803 仙台市青葉区国分町 3-6-1 仙台パークビル2階・3階 TEL：022-726-5072	仙台市営南北線 勾当台公園駅 徒歩1分	P 26
せんだいメディアテーク	〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町 2-1 TEL：022-713-3171	南北線勾当台公園駅下車、 「公園2」出口から 徒歩6分	P 26

※ 第3分科会（石巻分科会）は、仙台からバスで石巻市内のフィールドワークに向かいます。  
 集会場所については後日お知らせします。

## Ⅱ

## 関連イベント概要

### <宮城自治研・前夜祭>

宮城自治研の前夜祭という位置づけで、「支援への感謝と復興への決意」を確認しあう集会を行います。宮城自治研参加者全員の参加を基本とします。

- (1) 日 時 10月13日(木) 16:00開場 18:00~20:00
- (2) 場 所 勾当台公園市民広場<仙台市役所前>
- (3) 内 容 ステージ企画：被災体験談、復活・復興を遂げた郷土芸能、ミニコンサート等  
展 示 企 画：東日本大震災復興の歩み写真展等  
ブ ー ス 企 画：食材王国みやぎの食と地酒等、派遣職員交流ブース  
※ 企画内容は出演者や出店者等の都合により、予告なく変更・中止となる場合があります。予めご了承ください。
- (4) 参 加 費 1,000円  
※ 参加者には会場内の飲食等に使える「復興チケット」を事前に送付します。なお、当日チケット分以上の飲食については各自現金払いとなります。
- (5) 主 催 自治労東日本大震災対策本部
- (6) 協 力 自治労東北地区連絡協議会(東北地連)
- (7) 運 営 自治研宮城県実行委員会

### <被災地フィールドワーク>

参加希望者を対象に、被災地視察のバスツアーを実施します。北コース、南コースのいずれかを選び、申し込んでください。

- (1) 日 時 10月16日(日) ※所用時間はコースによって異なります
- (2) コース設定
  - 北コース  
仙台駅(9:00)→石巻市・日和山公園→大川小学校→南三陸町→気仙沼市→JR一ノ関駅  
解散(15:45予定)
  - 南コース  
仙台駅(9:00)→荒浜小学校→名取市関上・日和山→岩沼市千年希望の丘→山元町イチゴ農家→南相馬市内→福島駅(15:30予定)→仙台駅(17:40予定)  
※ 下車駅は、福島駅、仙台駅から選択できます。
- (3) 定 員 各コース90人(先着順)
- (4) 参 加 費 1,000円(昼食代として)
- (5) 主催・運営 自治研宮城県実行委員会



【第1分科会】 ～生きる～  
「いのち」を育む・いかす、支えあう

<p>テ — マ</p>	<p>市場経済優先社会が、格差・貧困を生み「いのち」を脅かしている。分権化を進め、地域という足元から格差、差別の解消や雇用の確保など地域に住むものが地域で決めくらしていける持続可能な地域社会の形成が必要である。 「いのち」を育む・いかす、支えあう社会を創り出すにはどうすべきかを探る。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自治研的課題</p>	<p>自治体の政策や個人で積極的に市民や各種団体と格差・差別の解消に取り組んでいるアウトリーチ事例を学び、共有する。 地域住民から自治体に何が求められているのか、何ができるのか探る。</p>
<p>課題解決にむけた 先進的活動</p>	<p>地域で生活支援、男女平等をはじめさまざまな格差・貧困解消にむけ市民とともに取り組んでいる活動（自治体職員、NPO団体）として、「仙台社協地域支えあい事業」について</p>
<p>タイムスケジュールと 企画内容</p>	<p>&lt;午前&gt; 9：00～9：10 開会挨拶・趣旨説明 9：10～10：40 講演 10：40～10：50 質疑 10：50～11：00 休憩 11：00～11：30 「仙台社協地域支えあい事業」の取り組み 11：30～12：00 意見交換 &lt;午後&gt; 13：00～14：50 ポスターセッション 事例① 地域での生活支援 ② 男女平等・格差 ③ 貧困解消 各説明時間 13：00～13：30 13：40～14：10 14：20～14：50 14：50～15：50 意見交換 15：50～16：00 まとめ</p>
<p>助言者 要請レポート・報告</p>	<p>&lt;講師・助言者（案）&gt; 日本大学教授 沼尾波子さん &lt;要請レポート・報告&gt; 「仙台社協地域支えあい事業」について</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で格差・差別・貧困解消にむけ取り組んでいる人</li> <li>・現在同じような課題を抱え、悩んでいる人</li> </ul>

【第2分科会】 ～生きる～  
「いのち」を守る

<p>テ — マ</p>	<p>「いのち」を守るために必要な、エネルギー、安全な食料・水循環、平和等で、国と地域住民の対立が、国内各地で鮮明化してきている。</p> <p>とくに「原子力発電再稼働問題」と「基地問題」は、地方自治と民主主義を大きく揺るがしている。</p> <p>また、身近な職場や地域では、人と人とのつながりが薄れ、人権意識が後退し、メンタル・いじめ・自殺が減らない。</p> <p>人の「いのち」の尊厳を守るために、東日本大震災の教訓や沖縄の反基地闘争から、私たちは何をすべきか、地方自治はどうあるべきか考える。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる自治研的課題</p>	<p>地方自治と民主主義を検証し、自己理解を深める</p>
<p>課題解決にむけた先進的活動</p>	<p>① 基地問題 ② エネルギー</p>
<p>タイムスケジュールと企画内容</p>	<p>&lt;午前&gt; ○講演（90分程度・沖縄より） ○活動発表     辺野古現地報告（40分）DVDを利用したの報告 ○質疑（30分） ◎昼食休憩（12：00～13：00） &lt;午後&gt; ○要請レポート2本（30分*2本） ○ワールド・カフェ形式による意見交換     テーマ1 「平和」         ① 辺野古の問題を解決するためにはどうすれば良いと思いますか？         ② 貴方の自治体の平和を実現するために何ができますか？     テーマ2 「新エネルギー社会」         ① あなたの地域に新エネルギーを普及させるためにどうすれば良いでしょうか？         ② あなたは自分の自治体がどんな自治体になって欲しいと思いますか？</p>
<p>助言者 要請レポート・報告</p>	<p>&lt;講演・報告&gt; 講演……沖縄県知事 翁長雄志さん or 名護市長 稲嶺進さん 報告……沖縄平和運動センター議長 山城博治さん &lt;要請レポート・報告&gt; 要請レポート……① 新エネルギー課（薩摩川内）or 佐賀（玄海原発）                           ② 宮城or福島等より新エネルギーについて</p>
<p>こんな人来てほしい！</p>	<p>・環境・エネルギー・基地問題などの課題に取り組んでいる人 ・環境・エネルギー・基地問題などの課題について関心を持ち、学びたい人</p>

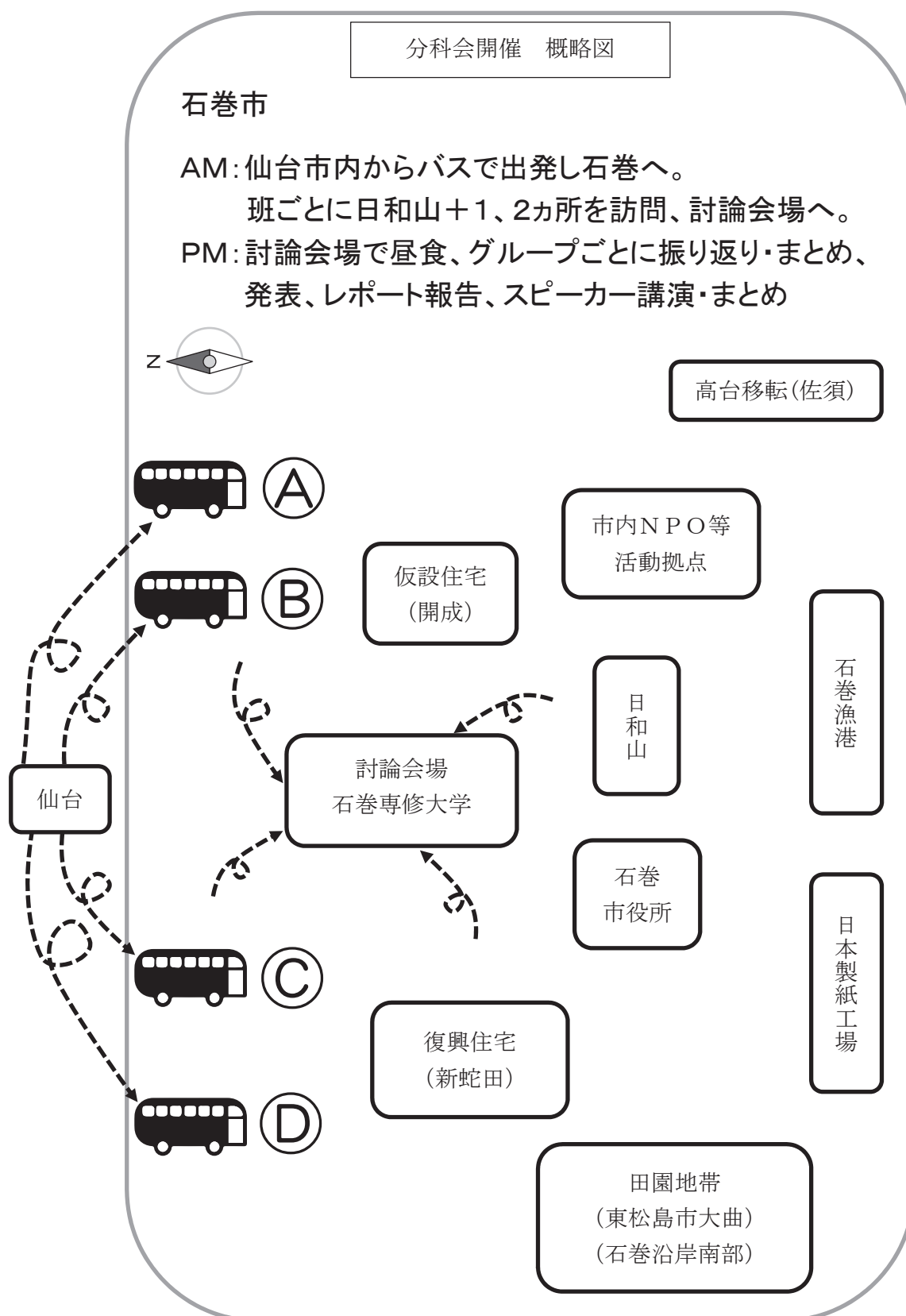
**【第3分科会】 石巻に虹を架けよう！**  
**～被災地の今を見る、知る、触れる、考える～**

A～Dのグループごとに45人定員(先着順)となります。希望するグループをご記入の上お申し込みください。別途参加費2,000円(フィールドワークバス代として、他の参加費とともに請求書をお送りします)

<p>テ ー マ</p>	<p>東日本大震災から5年がたち、被災地はどう変わったのか、変わらないのか。被災地の「住民生活やコミュニティ」、「なりわい(産業)の再生」、「自治体職員や全国からの応援職員」の「今」を見る・聞く・体感することで、現在の姿・住民・職員の思いを知る。それらを受け止めた上で、自治体職員としての役割、地域住民との協働、地域づくりの課題を考える。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自治研的課題</p>	<p>被災地の現状と課題、復興支援、被災地の地域づくりについて、被災地自治体をはじめ、それぞれの立場のレポーター、参加者が5年を振り返り、地方自治の未来につなげる。</p>
<p>課題解決にむけた 先進的 活動</p>	<p>A：住民生活とコミュニティの現状 B：なりわい(産業・雇用)の再生 C：まち・地域の再生と市民活動 D：自治体職員の現状と課題</p>
<p>タイムスケジュールと 企画 内容</p>	<p>移動等は別紙イメージ図参照          &lt;午前&gt;          8：00 仙台出発(A～Dのグループごとにバス分乗) 1h          9：00 グループごとのフィールドワーク 2h30m          (全体を俯瞰できる日和山を含む)          車上解説・現地報告者(案)          A：住宅復興事業担当、地域自治会          B：農業関係、日本製紙(紙パ連合)、漁協          C：NPO等活動団体          D：市職OB、支援自治体OB          11：30 石巻専修大学着、グループ振り返りまとめ 1h          12：30 昼食休憩          &lt;午後&gt;          13：00 分科会全体会開始(開催セレモニー) 10m          フィールドワーク報告(4グループ) 40m          現地報告(メインスピーカー；助言者) 30m          要請報告(東京、岩手、宮城、福島) 40m          ディスカッション(石巻レポートも) 30m          会場セッション、まとめ 30m          16：00 閉会→仙台駅に向けてバス出発          17：00 仙台到着(到着時間は道路事情により前後する可能性があります)</p>
<p>助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告</p>	<p>&lt;助言者&gt;石巻専修大学教授          &lt;要請レポート・報告&gt;          ・被災地支援(被災地を知る)の継続：東京          ・被災地課題：岩手(宮古)、宮城(気仙沼)、福島(相馬)          &lt;自主レポート・報告&gt;          ・開催地報告 石巻(会場セッションで発表いただく)          ・企画報告1「被災地の声」          2011年に発生した東日本大震災・新潟長野地震被災地各地の自治体組合員から「5年を振り返って今思うこと」を400字程度で募集(会場での指名発言を検討)          ・企画報告2「支援職員の声」          企画報告1と対をなす被災地支援経験者の声を募集(会場での指名発言を検討)          ・自主レポート・報告          「被災地を見る、知る、触れる、考える」実践レポ ほか</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<p>・被災地の現状が気になる人          ・過去に被災地に行ったことがあり、今どうなっているか気になる人          ・応援職員を出している自治体職場の人</p>

### 第3分科会 開催イメージ

AM「見る知る触れる」→PM「考える」→ 参加者が地元を持ち帰る、実践する



**【第4分科会】 安全な場所・逃げる場所ってどこなの？**  
**～防災を知ろう～**

<p>テ ー マ</p>	<p>策定された防災計画は有効な計画であるか？ その計画を支える多様なコミュニティはあるのか？ それが機能する日頃の連携ははかられているのか？ 事例なども通じて、住民・行政・組合それぞれの視点で討論する。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自治研的課題</p>	<p>防災を通じて、地域コミュニティをどのように協働・創生させるのか。</p>
<p>課題解決にむけた 先進的活動</p>	<p>徳島県における「事前復興」の取り組み 新潟県における「地域コミュニティ」の再生 福島県における「避難所運営」の取り組み</p>
<p>タイムスケジュールと 企画内容</p>	<p>&lt;午前&gt;  9：00～9：20 開会挨拶・趣旨説明  9：20～9：50 基調講演  常葉大学社会環境学部社会環境学科教授  重川希志依さん  9：50～10：00 質疑  10：00～12：30 レポート発表、討論  &lt;午後&gt;  13：15～15：00 避難所運営シミュレーション（避難所HUG）  15：00～16：00 感想発表・まとめ</p> <p>※ 避難所HUGは、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。</p>
<p>助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告</p>	<p>&lt;講師・助言者（案）&gt;  常葉大学社会環境学部社会環境学科教授 重川希志依さん  &lt;要請レポート・報告&gt;  新潟、福島、徳島</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域（コミュニティ）防災計画に携わっている人</li> <li>・地域（コミュニティ）復興に携わっている人</li> </ul>

## 【第5分科会】 まちムラの見方「見えているもの」と「見えていないもの」 ～下を向いて歩こう♪～

昼食は、仙台市内の飲食店で、グループごとにとっていただきますので、各自現金をご用意ください。

<p>テ　　ー　　マ</p>	<p>消滅でも創生でもない「足元」の議論をしていくためには私たちが、地域を知り、探り、まちムラの新たな魅力を再発見していくことが必要であると思われる。 そこで、まちムラの新たな見方・魅力を提示する「思考」や、まちの見方・とらえ方という「視点」について探っていくことで、自分がくらす地域に興味を持つ一つ一つのきっかけをつくる分科会とします。 路上観察学会事務局の前田和男さんを助言者に、まちムラを見つめる「観察」の視点を探ったのち、グループ別フィールドワークを実施し、報告会（品評会）で視点を共有しながら「地域を興すこと」について考える。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自　治　研　的　課　題</p>	<p>① 地域を知り、探り、魅力を発見するための視点の養い方 ② 多様な目線+想像力による地域の新しい魅力の創造</p>
<p>課　題　解　決　に　む　け　た 先　進　的　活　動</p>	<p>「マイナスの資源を視点・発想の転換でプラスの資源として活用した事例」や「地域の歴史や文化、生活に着目してまちおこしにつながった事例」など</p>
<p>タイムスケジュールと 企　画　内　容</p>	<p>&lt;午前&gt; 9：00 挨拶・参加者交流 9：30 講演           助言者：路上観察学会事務局 前田和男さん 10：30 グループ別フィールドワークのルール説明 11：00 グループ別フィールドワーク出発 ※昼食はグループごとにまちでとっていただくこととなります。 &lt;午後&gt; 13：30 グループ別フィールドワーク帰着、報告準備 14：00 フィールドワーク報告会（品評会） 15：30 助言者からの講評等 16：00 終了</p> <p>※ フィールドワーク（FW）について 通常は見過ごされるようなものを景観として観察・鑑賞し、遊びや笑いなどの「ゆとり」を持って、路上に潜む未知の魅力を探る予定です（FWは各班行動で助言者は同行しませんが、観察力や新たな視点の会得など参加者同士の「修行」の効果も狙っています）。 助言者の前田さんは、路上観察学会事務局として、故・赤瀬川原平さん方と日本各地の路地裏を探訪し、ユニークな風景を発掘してきた方です。</p>
<p>助　　言　　者 要　請　レ　ポ　ー　ト　・　報　告</p>	<p>路上観察学会事務局 前田和男さん</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<p>・自分のまちムラには何もないと思っている人 ・まちの見方・とらえ方を学びたい人</p>

【第6分科会】 復興・再興・新興!!  
 ～消滅でも創生でもない地域づくり～

<p>テ ー マ</p>	<p>全国で「人の高齢化」と「まち（インフラ）の高齢化」が同時に進む中、地域コミュニティの変容、団地の限界集落化、公共施設の再配置と利活用などの課題に対し、都市政策の視点を交えてまちムラを俯瞰しながら、地域の復興・再興・新興をめざして議論する。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自治研的課題</p>	<p>① 地方も都市も同じく抱える都市政策の課題に、被災地を含む全国の取り組みを参考に解決の道筋を探る。      ② 消滅と創生の二元論に陥ることなく、「そこに住む人の営み」を軸として、希望を紡ぐ持続可能な地域づくりを考える。</p>
<p>課題解決にむけた 先進的活動</p>	<p>① 仙台市の仮設住宅・復興住宅におけるコミュニティ対策      ② 島根県邑南町職の地域内消費拡大と地域貢献活動推進を結合した取り組み</p>
<p>タイムスケジュールと 企画内容</p>	<p>&lt;午前&gt;      9：00～9：30 開会・自己紹介      9：30～10：45 講演「都市政策の課題解決に向けて（仮）」      講師：東北大学大学院教授 増田 聡さん      10：45～11：00 レポート報告      11：00～11：40 グループトーク      11：40～12：20 昼食休憩      &lt;午後&gt;      12：20～13：35 講演「長続きする地域のかたち（仮）」      講師：島根県中山間地域研究センター      研究統括監 藤山 浩さん      13：35～13：50 レポート報告      13：50～14：00 休憩      14：00～15：00 グループトーク      15：00～15：40 グループ発表、全体討論      15：40～16：00 まとめ・講評</p>
<p>助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告</p>	<p>&lt;助言者&gt;      東北大学大学院教授 増田 聡さん      島根県中山間地域研究センター研究統括監 藤山 浩さん      &lt;要請レポート・報告&gt;      島根県邑南町職「地域内消費拡大に向けて労働組合にできること」</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い視野でまちムラを俯瞰し、希望ある地域づくりを語りたい人</li> <li>・都市政策的視点からのまちづくりに興味がある人</li> <li>・コミュニティ政策や、公共施設マネジメントに関わる人</li> </ul>

**【第7分科会】 若者力は無限大∞  
～若者が創り出すまちづくり～**

テ ー マ	若者が自主性・主体性を持ち、地域と関わり「魅力あるまち」にするためにいかに活動するか。 一次産業や伝統文化・芸能を若者が担い、地域活性化の一役をかう。
宮城自治研で取り上げる 自治研的課題	若者の発想力がどのように活かされているかを知り、行政にいかに還元できるか。
課題解決にむけた 先進的活動	若者が主体となって地域活性化や産業再生に取り組んでいる実践的事例の共通点を学び、参加者の活動の参考にする。
タイムスケジュールと 企画内容	<p>&lt;午前&gt; 9：00～11：00（質疑応答込） テーマ「地域は若者をどう活かすか（仮）」 講師：調整中 農山村を中心に、若者が主体となって地域活性化や産業再生に取り組んでいる事例をご講演いただきます。 11：00～12：00 要請レポート UNDER35「JK課インターン」</p> <p>&lt;午後&gt; ・「若手世代のコミュニティ再生への貢献」を事業として掲げる南三陸町復興推進ネットワーク（373NET）から立ち上げのプロセス・体験談（自治体との関わり）について講演を受けます。</p>
助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告	<p>&lt;助言者&gt; ① 農山村の地域活性化に関わる研究者 ② 南三陸町復興推進ネットワーク（373NET）（予定）</p> <p>&lt;要請レポート・報告&gt; ① UNDER35「JK課インターン」を行った報告</p>
こんな人に来てほしい！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手職員（観光や商工課など地域と関係する部門にいる職員）</li> <li>・IターンやUターンの人</li> <li>・一次産業や伝統文化・芸能などに関わる地域の中にいる人</li> </ul>



**【第8分科会】 地域の子育て力が豊かな地域社会をつくる  
～未来へつなぐ、子育て～**

<p>テ ー マ</p>	<p>いまや子どもの6人に1人が貧困にさらされている。社会から孤立し、日々の生活や将来に不安を抱える子どもたちへの支援が大きな課題となっている。「子どもの貧困」が社会問題となる中、市民的支持ののひとつとして「子ども食堂」が全国各地に生まれつつある。このような子ども、親、子育てを支えるさまざまな取り組みにより、「未来」につなぐ豊かな地域社会をいかにして作り出すのかを考える。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる自治研的課題</p>	<p>貧困課題の中での食育や、地域を巻き込んだ子育てをどう未来へつなげるのか？自治体が、地域のNPO等がどう関わっているのか、いくのか、具体的事例を参考に意見交換しながら考える。</p>
<p>課題解決にむけた先進的活動</p>	<p>① 子ども食堂の取り組みについて（貞山子ども食堂） ② 地域における子育て支援に関し公私の連携について（大分・NPO「アンジュママン」）</p>
<p>タイムスケジュールと企画内容</p>	<p>午前：パネルディスカッション 助言者 「子どもの貧困解消に向けて、公共サービスの役割と今後の課題（仮）」 研究者依頼中 報告①「地域と協働で課題を解決するコミュニティソーシャルワーカーの役割と課題（仮）」（大阪・豊中市） 報告②「仙台市の取り組み（仮）」仙台市子ども未来局 報告③「貞山子ども食堂の取り組み（仮）」 宮城・石巻市社協地域福祉コーディネーター 谷 祐輔さん 報告④「みんなで子育て！子どもは地域のたからもの（仮）」 NPO「アンジュママン」（大分・豊後高田市） 午後：グループ討論 「地域における子育て支援を考える（仮）」</p>
<p>助言者 要請レポート・報告</p>	<p>&lt;助言者&gt; 研究者依頼中 &lt;要請レポート・報告&gt; ・大阪・豊中市の取り組み ・宮城・貞山子ども食堂の取り組み ・大分・NPO「アンジュママン」</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<p>・子どもの貧困に関心がある人 ・地域で子育て支援に携わっている人</p>

【第9分科会】 QOD（Quality of Death）を迎えるために  
～地域でできること～

テ ー マ	平均寿命が世界一である一方、孤立死が増加するなど、「死」について考える機会が増えた。「自分らしい死に方」を見つけるために、地域はどう関わっていけばよいのか、そこに行政はどう絡んでいけるのか、各分野間の連携等について探求する。
宮城自治研で取り上げる 自治研的課題	① 医療・介護・地域の協働体制構築について ② 地域ごとの取り組みについて
課題解決にむけた 先進的活動	① 地域包括ケアシステム研究会の調査結果報告 ② 石巻市の取り組み事例報告
タイムスケジュールと 企画内容	<p>&lt;午前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域包括ケアシステム研究会の調査結果報告（90分）</li> <li>○質疑（10分）</li> <li>○休憩（10分）</li> <li>○地域包括ケアシステム事例報告（石巻市）（60分）</li> <li>○質疑（10分）</li> </ul> <p>&lt;午後&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○シンポジウム</li> <li style="padding-left: 20px;">コーディネーター……信州大学教授 井上信宏さん</li> <li style="padding-left: 20px;">パネリスト……仙台白百合女子大学教授 大坂 純さん</li> <li style="padding-left: 40px;">社福評（横浜市寿地区の方）</li> <li style="padding-left: 40px;">衛医評（大分県臼杵市の方）</li> </ul>
助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告	<p>&lt;助言者&gt;</p> <p>信州大学教授 井上信宏さん</p> <p>&lt;要請レポート・報告&gt;</p> <p>社福評（横浜市寿地区の方）</p> <p>衛医評（大分県臼杵市の方）</p>
こんな人に来てほしい！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会保障、医療、福祉の各分野で悩んでいる現場の人</li> <li>・ 地域包括ケアシステム担当者（行政）</li> </ul>

## 【第10分科会】 公共交通は誰のもの？ みんなのもの！！

定員制（先着90人）となります。定員に達し次第、県本部へ事務連絡いたします。

別途参加費620円（地下鉄一日乗車券代として、他の参加費とともに請求書をお送りします）

<p>テ ー マ</p>	<p>公共交通の役割を考え、地域における共生の取り組みについて考える。交通政策基本計画や関連法の改正により、地域の公共交通に関するマスタープランづくりで、自治体の役割、責任が明確となった。この枠組を活用し、既実践されている先進的な事例を考察する。また、2015年12月に開通した地下鉄東西線のフィールドワークを行い、これからの公共交通のあり方について考える。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自治研的課題</p>	<p>① 地域公共交通が果たすべき役割と課題について考える ② だれもが利用しやすい地域公共交通をどのように維持し構築していくか</p>
<p>課題解決にむけた 先進的活動</p>	<p>① 多様な関係者（住民等）の合意に基づく地域公共交通の再編事例（成功例or失敗例） ② 利用者目線で交通弱者対策に取り組んでいる事例</p>
<p>タイムスケジュールと 企画内容</p>	<p>&lt;午前&gt; ○講演「地域公共交通の果たすべき役割と課題（仮）」（90分） 九州大学准教授 嶋田暁文さん ○質疑（10分） ○休憩（10分） ○レポート報告（要請レポート2本）（60分） ○質疑（10分） &lt;午後&gt; ○地下鉄東西線フィールドワーク （駅舎等、車両基地ほか） ・チェックシートをもとに公共交通のあり方について考える</p>
<p>助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告</p>	<p>&lt;助言者&gt; 九州大学准教授 嶋田暁文さん &lt;要請レポート・報告&gt; ・障害者支援団体（NPO法人等）など 交通弱者対策の先進的な取り組み事例 地域公共交通の再編事例 地域の特徴や利用者の利便性などをコンセプトに設計された駅の紹介 地域公共交通事情</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の公共交通政策担当者</li> <li>・都市交の組合員</li> <li>・地域公共交通の再編に取り組んだ交通事業者</li> </ul>

**【第11分科会】 じちけん入門!!**  
**～じちけんから始まる組合活性化～**

定員制（先着70人）となります。定員に達し次第、県本部へ事務連絡いたします。

昼食は、仙台市内の飲食店で、グループごとにとっていただきますので、各自現金をご用意ください。

<p>テ ー マ</p>	<p>机を離れ、地元で頑張っている人とゆっくり街を歩くことで、見えてくる自治研活動のヒントがあるはず。これはおもしろい！          このような体験を通して、実は“楽しいじちけん（自治研）”を知ってもらう。</p>
<p>宮城自治研で取り上げる 自 治 研 的 課 題</p>	<p>『集まる・見る・知る、そして学ぶ（まねる）』の自治研で組合のイメージを変え、単組活動の活性化をはかる</p>
<p>課 題 解 決 に む け た 先 進 的 活 動</p>	<p>① 石川県 七尾市職員労働組合          「たのしい」自治研への取り組み          ② 北海道 札幌市役所職員組合清田区支部          「地元」を再発見し「地元」と共に活性化する取り組み</p>
<p>タイムスケジュールと 企 画 内 容</p>	<p>9：00 あいさつ（全体の流れ説明）          9：35 事例発表          10：05 地元の話の話を聞く          街の歴史・今の悩みほか          10：35 ワークショップルール説明          アイスブレイク          11：00 ワークショップ “まちのいいところ探し！”          7～8人程度のグループ行動          歩いて気付いたまちの良いところを撮ってくる。          ※ 昼食はグループごとにまちでとっていただくこと          になります。          14：00 帰着 報告まとめ          15：00 発表プレゼン方式（各5分程度）          仙台のまちへ提案・写真をスクリーンに映して発表          15：40 講評</p>
<p>助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告</p>	<p>&lt;助言者&gt;          定禅寺通まちづくり協議会事務局長 米竹 隆さん（予定）          自治総研事務局長 密田義人さん          &lt;要請レポート・報告&gt;          ① 石川県 七尾市職員労働組合          ② 北海道 札幌市役所職員組合清田区支部</p>
<p>こんな人に来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単組で自治研や組合に興味が無い人が多く行き詰まっている人</li> <li>・自治研がよくわからない人</li> <li>・自治研を始めたいと思っている人</li> </ul>

【第12分科会】 ほんとうの住民協働とは？  
～地元スペシャルになろう！～

<p>テ ー マ</p>	<p>地方における過疎化・超高齢化、都市部住民の相互の孤立など、今、コミュニティには大きな変化が起きている。一方、それらに対応するかのように全国的に市民によるまちづくり活動が活発になってきている。 地域を行政がどう支え、支援し、共に活動していくのか？“人がひとを支える、それがまちをつくる”ということ……この分科会を通じて、みんなで一緒に考えてみませんか？</p>
<p>宮城自治研で取り上げる自治研的課題</p>	<p>① 地域と行政がそれぞれの抱える諸課題を共有する。 ② 双方が意識改革を行い、今後の『明るい協働』のあり方を模索する。 ③ 住民協働の核となる『つながり』を生み出すフィールドを地域の中に創る。</p>
<p>課題解決にむけた先進的活動</p>	<p>① 奈良県本部自治研推進委員会「若者・学生と行った大和高田市既存施設の活用研究」 ② せんだい・みやぎNPOセンターにおける中間支援活動 ③ 「フューチャーセンター」「フューチャーセッション」による新たな住民合意の場づくり</p>
<p>タイムスケジュールと企画内容</p>	<p>9：00 基調提起 9：30 &lt;Session 1&gt; 「課題共有から始まる協働」 奈良県本部自治研推進委員会事例報告 他レポート発表 10：30 &lt;Session 2&gt; 「協働のための意識改革」 せんだい・みやぎNPOセンター事例報告 他レポート発表 11：30 午前中のまとめ (昼食休憩) 13：00 &lt;Session 3&gt; 「フューチャーセンター入門」 活動事例発表 14：00 まとめ・助言者からの講評 14：30～16：00 &lt;ポスターセッション&gt; ※ 助言者・発表者と分科会参加者全員による交流タイム</p>
<p>助言者 要請レポート・報告</p>	<p>&lt;助言者&gt; せんだい・みやぎNPOセンター役員 &lt;要請レポート・報告&gt; 奈良県本部自治研推進委員会 株式会社フューチャーセッションズ</p>
<p>こんな人来てほしい！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民団体と関わりがある人、または関わりたいと思っている人</li> <li>・日頃市民団体との関わりで悩んでいる人</li> <li>・市民の活動に携わっている人</li> <li>・地域課題や悩みを解決したいと思っている人</li> </ul>

## 【第13分科会】 UNDER35「おさんぽカフェ」 ～点線のつながり～

参加者の対象年齢は原則35歳以下とします。ただし、こうした企画に興味のある方（35歳以上）の参加も可とします。

テ ー マ	「つながり」を優先し、難しい議論や活動はしません！ この宮城自治研が終わった後も参加者同士がゆるくつながってほしいという願いから交流をメインに企画しました。この企画で何かが生まれるかもしれないし、この企画が終わった後に生まれるかもしれないし、それはわかりません。 この企画が有意義に過ごせるよう共につくっていきましょう！
宮城自治研で取り上げる 自治研的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな地域から集まる公共サービス労働者同士が交流をすることで、いろんな考え方や価値観を受け入れる。</li> <li>・宮城でつくったゆるいつながりを今後に生かす。</li> </ul>
課題解決にむけた 先進的活動	
タイムスケジュールと 企画内容	<p>9：00 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・グループ作成</li> <li>・アイスブレイク</li> </ul> <p>9：30 哲学カフェ ～テーマ：おさんぽ（仮）～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：てつがくカフェ@せんだい</li> </ul> <p>11：30 おしゃべりランチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビュッフェスタイルで自由に参加者同士の交流をはかる。</li> </ul> <p>13：00 おさんぽスイーツマップ作成&amp;現場リサーチ（仮）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチオシのスイーツを購入する。</li> </ul> <p>15：00 スイーツマップ発表（仮）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチオシのスイーツの披露</li> </ul> <p>16：00 閉会</p>
助 言 者 要 請 レ ポ ー ト ・ 報 告	<p>&lt;助言者&gt;</p> <p>福井大学医学部准教授 西村高宏さん（てつがくカフェ@せんだい・ファシリテーター）</p>
こんな人に来てほしい！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の参加者とゆるくつながりたい人</li> </ul>

## 1. 自治研レポート・論文の募集

### (1) 応募方法・応募用紙について

レポートや論文に応募する際は、必ず指定報告用紙を使用、必要事項を明記の上ご応募ください。報告用紙は、自治研ホームページにアクセスし「第36回地方自治研究全国集会レポート募集」のバナーから、報告用紙をダウンロードしてください。応募にあたっては、データと印刷したペーパーの両方を送付してください。

<データ送付先> jichiken-report@jichiro.gr.jp

<ペーパー送付先> 〒102-8464 東京都千代田区六番町1 自治労会館5階  
自治労・自治研事務局 レポート担当宛

### (2) 応募締切

提出期限は、第一次締切を7月22日（金）とします。最終締切は、8月10日（水）【厳守】とします。

### (3) レポート

単組・県本部およびNPO・市民団体、地域研究機関等から研究活動や実践活動についてのレポートを募集します。応募いただいたものは、全国集会において関連するテーマの分科会別レポート報告集に掲載し、第13回地方自治研究賞の自治研活動部門への応募レポートとして取り扱います。なお、優秀賞に選ばれた場合には、自治研集会初日に参加いただく予定です。

<レポート提出にあたっての注意点>

- ① レポートの冒頭に【第〇分科会】と明記してください。各分科会で取り扱うテーマを参照の上、レポートを提出する分科会を選択してください。なお、提出分科会の変更をお願いすることもありますので、あらかじめご了承ください。また、提出者の名前、所属、連絡先等を明記してください（連絡先は印刷されません）。
- ② 字数については、6,000字程度（横書き）とし、図表資料等を含め1万字以内に収めてください。
- ③ 集会当日の分科会における報告発表時間については、各分科会の運営によりしますので、確保できない場合があります。また応募したレポートは返却しません。

### (4) 論文

自治労内外から広く、地方自治・地域公共サービスに関する論文を募集します。テーマの限定はなく、エッセイや研究報告、実践報告など形式は問いません。自治体職員、地域公共サービス関係者、市民、地域の研究者など（共同でも可）、どなたでも募集できます。応募いただいたものは、全国集会において報告集に掲載し、また第13回地方自治研究賞の自治研研究論文部門への応募として取り扱います。なお、優秀賞に選ばれた場合には、自治研集会初日に参加いただく予定です。

<論文提出にあたっての注意点>

- ① 論文の冒頭には【論文】と明記し、提出者の名前、所属、連絡先等を明記してください（連絡先は印刷されません）。
- ② 字数については、8,000字程度（横書き）とし、資料含めて、上限は1万字以内に収めてください。

#### (5) 第13回地方自治研究賞について

第13回地方自治研究賞は、以下の通り審査・選考し第36回自治研全国集会で表彰します。

##### ① 選考

前項のレポート・論文の募集によって提出されたものに対し、自治研助言者若干名、自治研中央推進委員長、自治研事務局長で構成する選考委員会が審査を行い、本部・中央執行委員会に報告し決定します。第1次選考は8月初旬、最終選考は9月初旬の予定です。

##### ② 表彰

自治研活動部門は、優秀賞1点（副賞20万円）、奨励賞若干（副賞5万円）、自治研究論文部門は、優秀賞1点（副賞10万円）、奨励賞若干（副賞5万円）とします。表彰は、10月14日の第36回自治研全国集会・全体集会でを行います。

##### ③ 地方自治研究賞表彰内規

(1) 地方自治研究賞は、自治労の地方自治確立の運動および自治研活動の発展を期すため、優れた自治研活動ならびに地方自治に関する研究論文を表彰し、もって一層の運動発展に資することを目的とする。

(2) 地方自治研究賞は、次の2部門とし、自治研全国集会において表彰状ならびに副賞を贈呈する。

##### ① 自治研活動部門

優秀賞	1	副賞20万円
奨励賞	若干	副賞5万円

##### ② 自治研究論文部門

優秀賞	1	副賞10万円
奨励賞	若干	副賞5万円

(3) 自治研活動部門は、自治研全国集会上に提出される各単組・県本部およびNPO・市民団体・地域研究機関等からのレポート・報告を対象とし、自治研究論文部門は、組合員、地域公共サービス職場の勤労者および地域研究活動等を行う市民から募集した論文を対象として、それぞれ選考する。

(4) 選考は、自治研中央推進委員長、自治研事務局長および自治研助言者若干名で構成する選考委員会が行うものとし、中央執行委員会に報告しなければならない。

(5) 選考にあたっては、次の点を重視する。但し、①は、自治研活動部門のみに適用する。

- ① 職場や地域との共同作業状態（運動との直接・間接的関連）
- ② 争点に対する接近視角ないし問題設定の斬新性と総合性
- ③ 分析の科学性と叙述の説得性
- ④ 成功・失敗にかかわらず、問題提起や将来展望の度合



## 2. 自治研チャレンジサポートの募集

自治研は「試行錯誤が可能なフィールド」です。「研究」とつくため、敷居が高いと思われがちですが、誰もが気軽に勉強し、挑戦し、経験交流や人材育成に使える場としての自治研を浸透させていきたいと思えます。

そこで、前回の佐賀自治研から新設した自治研チャレンジサポート制度を継承し、レポートや論文にまとめるには至らない自治研の“芽”となりうる企画を募集します。採用された企画に対しては、企画実施のための助成金を給付します。

### (1) 応募要件

- ① 自治労組合員であれば誰でも応募可とします。メンバーに自治労組合員が参加していることを条件に、「自治研部」などのチームでの応募も可とします。
- ② 支援の対象とする活動
  - ・市民自治のゆたかな社会をめざそうとする活動
  - ・職場や地域に自治研活動の浸透をはかる取り組み
- ③ 2018年10月までの実施・活動完了する取り組みを対象とし、チャレンジサポートに採用された企画については、第37回自治研全国集会において活動報告としてレポートを提出してもらいます。

### (2) 審査

自治研中央推進委員会および自治研事務局にて構成する選考委員会にて第一次審査を行います。最終審査は宮城自治研集会にて参加者からの得票の多いものを優秀企画賞（若干数）として表彰します。優秀企画賞に採用された企画に対して、10万円を限度に企画実施にあたっての助成金を給付します。

### (3) 応募方法と締切

応募にあたっては、単組・県本部を経由しての応募に限らせていただきます。最寄りの組合にて「チャレサポ活動計画書」をお取り寄せください。なお、締切後、提出された計画書をもとにすみやかに第一次審査に入り、最終選考に残る企画については発文でお知らせします。

<締切> 2016年8月10日（水）必着【厳守】

<申し込み先> メールアドレス：jichiken-report@jichiro.gr.jp



## 宿泊・会場のご案内

### 1. 宿泊のご案内

#### (1) 宿泊のお申し込み方法

- ① 参加申込書に参加者・宿泊人数のご記入をお願いします。
- ② 宿泊ランクの希望をご記入ください。

※ なお、配宿につきましては、ご希望に沿えない場合もございますので、予めご了承をお願いし、実行委員会一任とさせていただきます。お申し込み人員の関係や、実際のお申し込みの場合、分宿となる県本部もございます。あわせてご了承願います。

#### (2) 宿泊料金（希望するホテルが同じランクであっても料金が異なりますので、決定した後、料金をご連絡することになります。）

宿泊ランク

記号	1人1室（シングル）	ホテル番号
A	13,000円～16,000円	①・⑤・⑥・⑨
B	11,000円～13,000円	②・③・④・⑦・⑧・⑩・⑪・⑫・⑬・⑰
C	9,000円～11,000円	⑭・⑮・⑯・⑱・⑳・㉒・㉓・㉔・㉕・㉖・㉗・㉘
D	7,000円～9,000円	㉙・㉚・㉛・㉜・㉝

- ・お部屋タイプは洋室タイプで、料金はお一人様あたりの料金です。基本1泊朝食税金・サービス料金を含んでおります。ホテルによっては、簡易なセットメニューとなりますので予めご了承ください。
- ・ツインルームをご希望の場合は、伝言メモ欄にその旨ご記入ください。ただし、ご希望通りにお手配できない場合がございますので予めご了承ください。

#### (3) 配宿の決定

配宿につきましては9月23日（金）までに決定し、各県本部に連絡させていただきます。

#### (4) 宿泊取消料金

宿泊前日より起算して ※宿泊10月14日（金）の場合	
15日前の17時30分まで（9月29日）	無料
14日前～8日前の17時30分まで（9月30日～10月6日）	10%
7日前～2日前の17時30分まで（10月7日～10月12日）	30%
前日の17時30分まで（10月13日）	50%
当日以降および無連絡	100%

#### (5) 交通機関のご案内

仙台市内のホテルを手配いたします。全体集会会場・分科会会場へのアクセス方法は、徒歩または仙台市市営バス、地下鉄、タクシーの利用となります。

2. 会場・宿泊施設のご案内

会場一覧表	
施設名	
①	仙台サンプラザホール(全体集会・分科会)
②	TKPガーデンシティ仙台勾当台(分科会)
③	TKPガーデンシティ仙台(分科会)
④	せんだいメディアテーク(分科会)

宿泊施設一覧表	
ホテル名	
①	ドリーミンEXPRESS仙台広瀬通
②	仙台ワシントンホテル
③	ホテルモンテレ仙台
④	江陽グランドホテル
⑤	三井ガーデンホテル仙台
⑥	ホテルJALシティ仙台
⑦	仙台国際ホテル
⑧	ANAホリデイ・イン仙台
⑨	コンフォートホテル仙台西口
⑩	ホテルレオパレス仙台
⑪	ホテルクラウンヒルズ仙台青葉通り
⑫	ホテルグランテラス仙台国分町
⑬	仙台サンプラザ
⑭	スマイルホテル仙台国分町
⑮	ホテルプレミアムグリーンヒルズ
⑯	ホテル法華クラブ仙台
⑰	ホテルモンテエルマーナ仙台
⑱	丘のホテル
⑲	ホテルプレミアムグリーンプラス
⑳	アパヴィラホテル<仙台駅五橋>
㉑	ホテルユニサイト仙台
㉒	ホテルグリーンマーク
㉓	ホテルグリーンパシフィック
㉔	ホテルグリーンセレクト
㉕	ホテルグリーンシティ
㉖	ホテルグリーンライン
㉗	杜のホテル仙台
㉘	アークホテル仙台青葉通り
㉙	ホテルパールシティ仙台
㉚	ユニゾイン仙台
㉛	仙台ビジネスホテル

## 1. 参加申し込みのご案内

### (1) 参加申し込み方法

参加申込書に必要事項をご記入の上、6月下旬から7月下旬に各都道府県本部で集約いただき、以下の日程で報告をお願いします。どちらの申し込みもメールとファックスの両方をお願いします。

申し込み内容	申し込み期日	書式
参加者・宿泊人数・宿泊ランク、お弁当の申し込み	8月1日（月） ～8月10日（水）	30ページの書式 データは発文に添付しています
最終のお名前報告	9月5日（月）	8月中旬に県本部宛に発文します

#### ※ 第3分科会お申し込みの際の留意点

バスの座席数に限りがあるため、下記のA～Dのグループごとに45人定員（先着順）となります。グループごとに希望する人数を記入してください。

定員制となるため、各県で**第2希望**をあらかじめ集約されることをお勧めいたします。

A：住民生活とコミュニティの現状

B：なりわい（産業・雇用）の再生

C：まち・地域の再生と市民活動

D：自治体職員の現状と課題

※ 自治研集会では託児所を準備いたします。必要人数を把握するため、託児所をご希望の方は、お子様の人数をご記入ください。料金・託児内容は改めて実行委員会よりご案内します。

※ 車椅子でご参加される場合には、その旨申込書にご記入ください。すべての分科会会場がバリアフリーではないため、改めて実行委員会よりご案内します。

※ 手話通訳、点字資料等のご希望などありましたら、伝言メモ欄にご記入ください。

### (2) 申し込みおよび問い合わせ先

「第36回地方自治研究全国集会宮城県実行委員会」

申込受付係（㈱近畿日本ツーリスト東北仙台団体旅行支店内 担当：服部・岡・鈴木）

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル5F

電話：022-222-4141

営業日・時間

FAX：022-221-6188

平日：9時30分～17時30分

E-mail：sendai-dantai@or.knt-th.co.jp

土・日・祝日：休業

### (3) 参加費

集会参加費は、10,000円（会場費、資料代）です。昼食代・宿泊費の料金は含みません。下記の分科会・関連イベントに参加される方は別途参加費がかかります。

#### 【分科会】

- 第3分科会：2,000円（フィールドワークバス代として）
- 第10分科会：620円（地下鉄一日乗車券代として）

#### 【関連イベント】

- 前夜祭（10月13日）：1,000円（復興チケット代として）
- フィールドワーク 北コース・南コース（10月16日）：1,000円（昼食代として）

### (4) 参加費納入日

参加費の前納、昼食・宿泊料金納入期日は、10月7日（金）です。

- ※ 申込締切後、9月28日（水）までに①確認書（参加、弁当、宿泊、託児所）、②請求書（口座振込）、③宿泊案内、④その他関係書類等を県本部・ご担当者宛にお送りします。

### (5) 最終報告後の変更方法について

9月2日（金）以降、参加者の変更・追加・取り消しについては、参加申込書または確認書に見え消しの上、申込受付係（P28参照）までメールまたはファックスにてご連絡ください。なお、電話での変更等は、トラブルの原因になりますのでご遠慮願います。

## 2. 昼食（お弁当）のご案内

10月14日（金）、15日（土）両日ともご用意させていただきます。参加者に対しては、下記の分科会を除き、原則的にお弁当対応となります。弁当代は、10月14日：1,290円（税込）、10月15日：1,000円（税込）です。前納制とし、参加費とともに請求させていただきます。

- ※ 第5・第11分科会参加者については、フィールドワーク中に街中でグループごとに昼食をとっていただくこととなりますので、現金を用意してください。個別の領収書の発行は難しいため、各県本部での工夫をお願いします。

したがって、弁当の申し込みの際は第5・第11分科会に参加される方を除いた人数をご注文ください。

## 3. その他

夕食会場手配のお手伝いをいたします。

ご希望の方は日時、ご人数、ご予算などを伝言メモ欄にご記入ください。

「第36回地方自治研究全国集会宮城県実行委員会」申込受付係

(株式会社近畿日本ツーリスト東北仙台団体旅行支店内)

電話：022-222-4141

FAX：022-221-6188

E-mail：sendai-dantai@or.knt-th.co.jp

報告日：2016年 月 日

第36回地方自治研究全国集会参加申込書(第一次) 2016年8月10日申込締切

報告者連絡先			
都道府県名		電話	
担当者名前		FAX	
フリガナ		E-mail	

参加者・宿泊人数			
参加者数			人
宿泊者内訳			
10月13日(木)	男		人
	女		人
	計		人
10月14日(金)	男		人
	女		人
	計		人
10月15日(土)	男		人
	女		人
	計		人

分科会への参加人数		
第2日目(10月15日)		
第1分科会	人	
第2分科会	人	
第3分科会	第一希望	
※各コース定員制となるため、各県で第二希望を集約されることをお勧めいたします。	A	人
	B	人
	C	人
	D	人
第4分科会	人	
第5分科会	人	
第6分科会	人	
第7分科会	人	
第8分科会	人	
第9分科会	人	
第10分科会(※定員あり)	人	
第11分科会(※定員あり)	人	
第12分科会	人	
第13分科会	人	

宿泊ランク			
希望の番号に○印をご記入ください。			
1人1室	第一希望	第二希望	
	A	A	
	B	B	
	C	C	
	D	D	

※ ツインルームおよび喫煙・禁煙部屋をご希望の場合は、その旨を伝言メモ欄にご記入ください。

※ 夕食会場手配のお手伝いをいたします。  
ご希望の方は日時、ご人数、ご予算などを伝言メモにご記入ください。

関連イベント	
<コースのご案内>	
10月13日(木) 前夜祭	人
10月16日(日)(※定員あり) フィールドワーク 北コース	人
10月16日(日)(※定員あり) フィールドワーク 南コース	人

弁当		
10/14(金)		個
10/15(土)		個
その他		
手話通訳者		人
車椅子利用		人
託児所利用		人
		歳

伝言メモ欄	
喫煙部屋希望	部屋
禁煙部屋希望	部屋
合計	部屋

## 第36回宮城自治研集会一般（市民）参加申込書

＜お申し込みにあたって＞

集会の詳細については、開催募集要項をご覧ください。

お名前		電話番号	
フリガナ		ファックス	
所属			
性別	男 / 女	E-mail	
ご住所	〒		

＜宿泊の希望＞ ※募集要項25ページ ○でお選びください。

お部屋タイプ	1人1室（シングル） / 2人1室（ツイン）
タバコ	喫煙 / 禁煙 *ご希望通りお手配できない場合がございます。
ホテルランク	第一希望 A / B / C / D
	第二希望 A / B / C / D
宿泊の有無	10/13（木） / 10/14（金） / 10/15（土）

＜お弁当＞

お弁当	10/14（金） / 10/15（土）
-----	---------------------

＜全体集会＞ 参加を希望される項目に○印をご記入ください。

第1日目の全体集会 10/14（金）		関連イベント	10月13日（木）前夜祭
			10月16日（日）
			フィールドワーク 北コース
			10月16日（日）
			フィールドワーク 南コース

＜分科会＞ ※募集要項8～21ページ

テーマ別分科会	① / ② / ③ (A B C D) / ④ / ⑤ / ⑥ /		
10/15（土）	⑦ / ⑧ / ⑨ / ⑩ / ⑪ / ⑫ / ⑬		

＜その他＞

その他	手話通訳者 / 車椅子利用 / 託児所（人数 人、年齢 歳）
-----	--------------------------------

＜備考欄＞

--

＜お申し込みおよびお問い合わせ先＞

「第36回地方自治研究全国集会宮城県実行委員会」申込受付係  
 (株)近畿日本ツーリスト東北仙台団体旅行支店内 担当：服部、岡、鈴木  
 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-7-20 東邦ビル5F  
 電話：022-222-4141 営業日・時間  
 F A X：022-221-6188 平日：9時30分～17時30分  
 E-mail：sendai-dantai@or.knt-th.co.jp 土・日・祝日：休業





1959年5月26日第三種郵便物認可 2016年3月5日発行【毎月5日発行】第58巻3月号(通巻678号)

# 月刊自治研 3 2016

vol.58 no.678

創ろう! 市民自治のゆたかな社会



## 震災五年後の 今を生きる



宮古市都市整備部都市計画課復興まちづくり推進室

去石一良 さん

（左）地域を支える顔

# まちの 実例 が

# ここに ある

3月号の特集は

# 「震災五年後の

# 今を生きる」

☆☆☆ お得な年間購読をお申し込みください。☆☆☆

月刊自治研

編集：自治研中央推進委員会  
毎月1回発行  
定 価 本体 762円+税  
年間購読料 本体 7,434円+税

●お問い合わせ／お申し込みは  
株式会社 自治労サービス  
**自治労出版センター**  
TEL 03(3263)2023 / FAX 03(5213)5485

♪自治研Facebookページははじめました♪

<https://www.facebook.com/JichiroJichiken>

自治研のホームページからも購入できます。URL <http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/>

申込先 株式会社 自治労サービス 自治労出版センター FAX 03-5213-5485

## 「月刊自治研」申込票

ご住所 〒 -

会社・団体名 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

年間購読のお申し込み \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月号より \_\_\_\_\_ 部

特定した号、バックナンバーのお申し込み \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月号 \_\_\_\_\_ 部

創ろう、市民自治のゆたかな社会

第36回地方自治研究全国集会

# 宮城自治研

